

■ 「ICT地域活性化大賞2017」 奨励賞 受賞事例

ICT人材育成と創業支援による地域活性化
(沖縄市、スタートアップコンソーシアム沖縄)

1. 目的と概略

沖縄市は、戦後、米軍嘉手納基地の門前町として発展し、第3次産業を主要な産業とした経済構造となっています。その影響もあり、現在でも40か国以上の外国籍の方が居住している国際色豊かなまちです。しかし、モータリゼーションの発達や周辺地域の基地返還跡地利用が進み大規模商業施設が進出したなどにより、地域経済循環率が80.9%を示すなど市外への経済流出が進んでおり、特に中心市街地は活気が失われるとともに、雇用の場をいかに創出していくかが課題となっています。

こうした中、地方創生加速化交付金を活用し、平成28年8月から創業・起業支援の拠点として「スタートアップカフェコザ」(以下「カフェコザ」という。)の本格運用を開始しました。「カフェコザ」においては、創業希望者をワンストップで支援する創業・起業相談窓口を設置し、ICTに係る人材育成などの取組みを一体的に推進することで、地域経済を牽引する人材や企業を輩出するとともに、外部からの人材流入、企業の移転、民間投資の喚起につなげ、将来的には、エコシステムの構築を目指し、本市を中心とする沖縄県中部地域が新たな産業の集積地となることを目指したいと考えています。

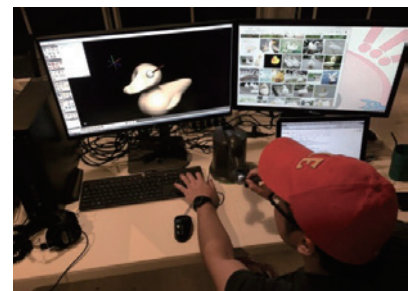


2. 先進的な優良事例紹介

2.1 事業概要

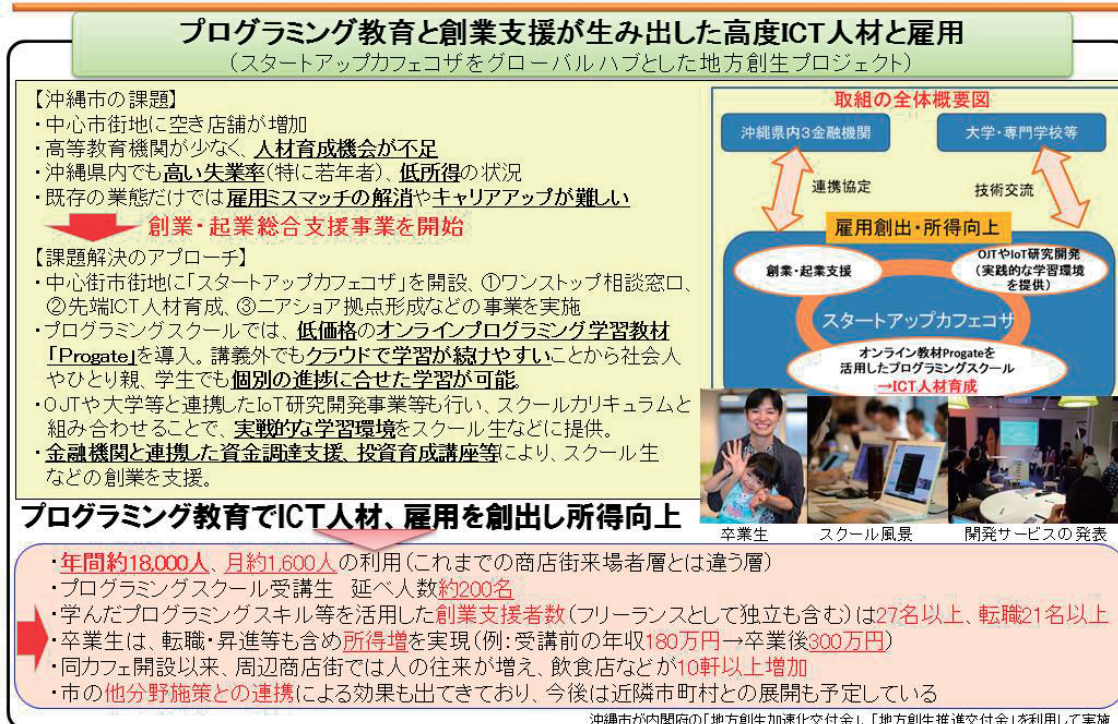
中心市街地の商店街内の空き店舗を活用して、創業・起業及びICT人材育成の拠点施設となる「カフェコザ」及び3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機械を配備した「オキナワミライフクトリー」を設置しました。また、これらを拠点に、創業・起業した、あるいは育成された人材をはじめ、市内外はもとより、県外、国外からも企業等が集積するエコシステムの構築に取り組んでいます。

「カフェコザ」では、①創業・起業相談窓口、②ニアショア拠点形成事業、③先端ICT人材育成の3つを柱とし、3つの事業が相互に連携することで、人材育成から就業支援、起業・創業、人材・起業の集積と言った一連のプロセスをワンストップ化することを企図しています。また、「カフェコザ」には、相談窓口以外にも無料のミーティングスペースやコワーキングス



ペース等を配置しており、日常的なコミュニケーションや勉強会・イベントにおける交流等を通じ、本施設を核としたコミュニティの形成を意識しています。

ICT人材育成と創業支援による地域活性化(沖縄市、スタートアップコンソーシアム沖縄)



2.2 コラム

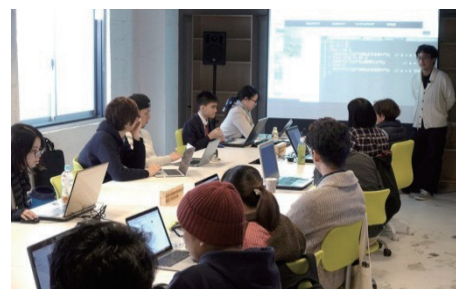
① サービスイメージやシステム構成

「カフェコザ」では、起業家マインドを育む各種セミナーやイベント等を数多く企画・開催し、人材育成に取り組んでいます。その中でも特徴的なもののひとつとして、「プログラミングスクール」があります。

プログラミングスクールは、一日3時間×40日間を1クールとしており、これまで、延べ人数で約200人の方に受講いただきました。受講生は、ネットサーフィン程度の経験しかない初心者の方、IT関係とは別のお仕事をされている方、集中的にプログラミングを学びたい方など様々です。デザイン系の仕事に携わる一方でwebの仕事にも取り組もうとしている方なども受講されています。

「カフェコザ」のプログラミングスクールのカリキュラムは、座学のほか、スクール後半にチームによるグループワークを行う事としています。グループワークでは、卒業制作のようなサービス構築・プレゼンテーションを課しており、擬似的な職業体験ができるプログラムとなっています。

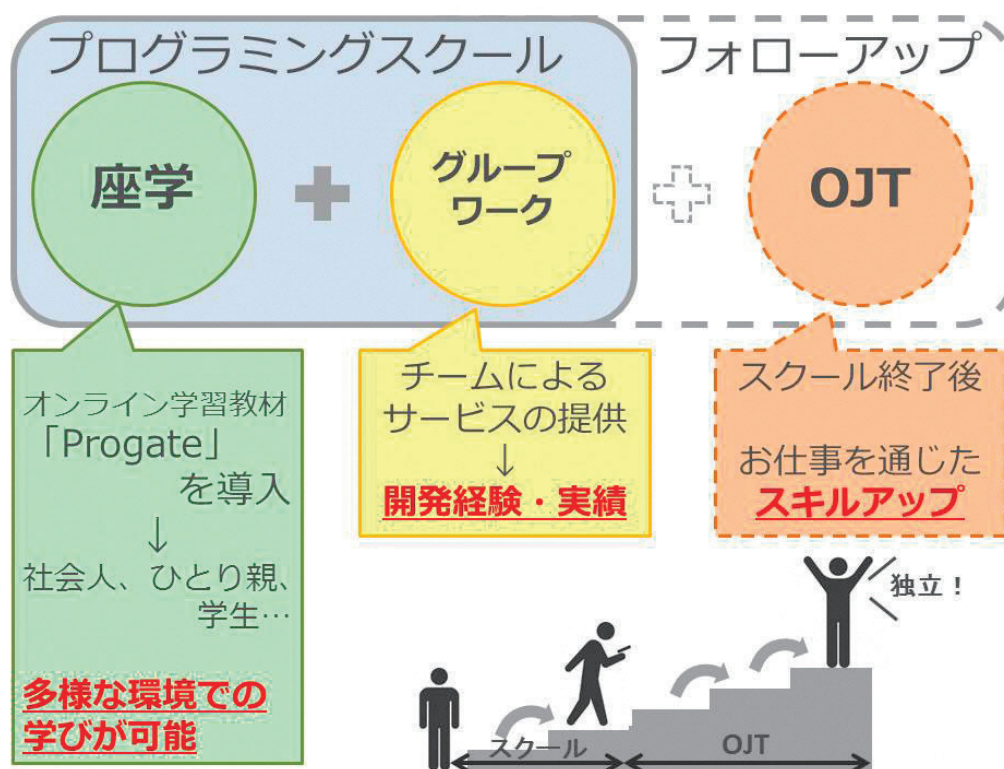
座学では、講義と並行してオンラインプログラミング学習教材「Progate (プロゲート)」を導



入しています。これにより、講義以外の時間にもそれぞれの進捗や理解度に応じた学習（eラーニング）が可能となっています。受講生は、社会人や一人親、子育て中の方、家族の介護をされている方、学生など、それぞれの置かれる環境も様々であることから、オンラインで、各自のできる時間に学習を進めることを可能としています。また、「Progate」のサービスは、初心者でも挫折しないようさまざまな工夫が凝らされた品質と機能を保持しつつ低価格であることから、受講料を低減することができるとともに、スクール終了後も個別に継続学習を行うことが可能となっています。

また、座学の次のステップとして、グループワークによるサービス構築・プレゼンテーションを経験することで、仕事につなげていくための開発経験や実績を積むことが可能となります。

加えて、プログラミングスクール終了後も、「カフェコザ」に常駐するエンジニアが相談を受け、学習のフォローアップが可能であるとともに、希望者は実際に仕事を通じたスキルアップを図ることが可能であり、これらのステップを通じ、創業・起業へとつなげていく仕組みづくりをしています。



「カフェコザ」のプログラミングスクールでは、「地域や社会の課題を発見」し、「合理的思考・論理的思考を用いて解決」という姿勢を身につけることに価値を置いており、あくまでプログラミングは「問題解決の1ツール」でしかないと位置づけているところに特徴があります。プログラミングスクールでの座学やグループワークを通じて、受講生は、理解が足りない部分を自ら整理し検索する、要件定義を行うなどの姿勢を日々苦勞しながら身につけていきます。このことは、単にプログラマーの養成にとどまらず、他の職種にも通ずるものと考えています。実際、卒業生の進路は、プログラマーに限らず様々です。

② 事業展開による効果・成果

平成29年2月現在、「カフェコザ」の開設から1年強がたち、年間約18,000人、月間約1,600人の方にご利用いただいています。利用者の中心は、20代前半～40代前半のICTや起業等に関心の高い方々です。なお、こうした方々は、「カフェコザ」の立地する商店街にこれまでこられてきた方々とは違う層となっています。

また、プログラミングスクールは6クールを終え、受講生は延べ人数で約200人となっています。ここで学んだプログラミングスキル等を活用した創業者数はフリーランスとしての独立等も含み27名以上、転職も21名以上となっており、転職・昇進等も含め所得増を実現する事例もうまれてきています。

こうした中、周辺商店街では「カフェコザ」の利用者をはじめ、創業者が事務所を構えたり、ゲストハウスやシェアハウス等も展開したりなどしており、人の往来も徐々に増え、飲食店などが10軒以上増加するなど、市の地域活性化にかかる施策との連携による効果も表れてきています。

③ 事業展開のポイント

独創性・先進性

「カフェコザ」は、商店街の空き店舗をリノベーションし、デザイン性の高い空間を実現しているとともに、最先端のICT機器やデジタル工作機械を配備しています。こうしたハード部分をただ整備したとしても、現在の成果に繋がらなかったのではないかと分析しています。むしろ、ハード整備を行う前に、民間ベースで勉強会を重ねるなどの機運醸成の動きがあり、沖縄市の課題や優位性等に配慮した仕組みづくりについて検討し、十分なソフト面での仕込みを行なった点が重要だったと考えています。このように「仕込み」の作業を重ね、参加者の増加や、コンテンツの充実など一定の事業の見通しを得た後に、ハード整備に移行しています。また、事業開始後も事前に検討した仕組みや人脈を十分に活用し、また、整備した施設や機材を使いこなすことのできる人材を配置することにより、実用化に向けたアドバイスができる体制づくりを行っており、継続して地域課題の解決の拠点として進化を続けています。

住民等との連携・協力

沖縄市では、沖縄振興開発金融公庫、琉球銀行、コザ信用金庫と「創業及びスタートアップ支援に係る連携協定」を締結しており、「カフェコザ」の創業・起業相談窓口と連携し、事業計画のブラッシュアップや融資等による資金調達支援を行うとともに、創業に関するセミナー等への講師派遣や持込み開催等により創業希望者の発掘に寄与しています。また、ベンチャーキャピタルとのマッチング等を支援する育成プログラムを協働で実施することで、スタートアップ企業の創出を促進しています。

さらに、周辺の商店街等を通じた創業者への空き物件に関する情報提供等の連携がなされており、周年記念事業等の際には商店街を会場としたイベント等も開催しています。

2.3 サービス利用者の声

スタートアップカフェコザの利用者からは、「プログラミングスクールについていくのは大変だったが、講座の時間以外にも講師やエンジニアがいることで疑問や不明な点を話すことが出来たり、また、オンライン学習サービスのおかげで時間や場所を気にせず学ぶことができたのは助かった」という声があります。

また、「プログラミングについての基礎知識を習得することができ、本業の小売事業においてもHPの制作の際に委託先と対等に話をすることができ費用対効果の大きな依頼ができ、資金力が豊富でない中小企業者こそこういった知識が必要なのではと感じた」という声もありました。さらに、「プログラミングスクール以外にも多様なセミナーや講座が開催されており、地方ではなかなか聞くことができない最前線の情報を得ることができるのは、スタートアップカフェコザの強みだと感じている」との声もありました。

それ以外にもプログラミングスクール以外での利用者の中には、「長期間海外で留学・就職を経験し起業を考えていたが、地元であるはずの沖縄はその選択肢に含まれていなかった。しかし、スタートアップカフェコザができ、最先端の知識や技術を持った人との出会いやコミュニティが形成される可能性を感じ、沖縄市で起業した」という利用者もいます。

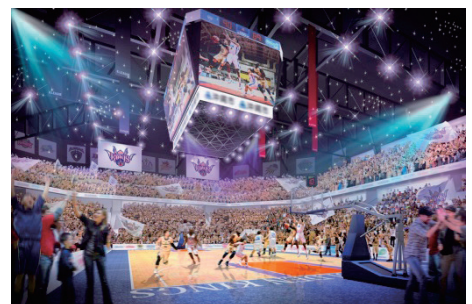
2.4 今後の課題と展開

エコシステムの構築に向け、計画の初期段階では、沖縄市による委託事業として実施するが、段階的に関連企業の連携等による民間での研修開催へシフトすることなどにより、経費の圧縮を図り、最終的には自立運営を目指し取組みを進めています。

そのためにも、事業の実施により新たな雇用や起業を創出することで、人材育成研修に対するニーズ等がさらに高まり、これにより、受講料や企業研修等により財源を確保することが可能となると考えています。また、先端ICT教育事業やニアショア拠点形成事業については、早期に民間事業へシフトするなど、戦略的、段階的に自走に向けた取組を進めていきたいと考えています。

また、「カフェコザ」自体は自走に向けた取組を進める一方で、現在、本市が推進している（仮称）沖縄市多目的アリーナ整備等の他の施策においても、これらを活用するコンテンツ等を創造・運用できる人材を育成することでより充実した施策展開へとつなげていくとともに、地域内での経済循環を生み出すことが可能となると考えています。現に、上記アリーナでは2023FIBAバスケットボールワールドカップの予選ラウンドの誘致に成功しており、FIBAからは、先端ICTの活用が求められています。

これらの他の施策とも連携を図ることで、周辺へのIT企業等の集積や新たな人材や技術や企業の育成が生態系のように連鎖的に産まれてくるエコシステムを構築することにつながり、「カフェコザ」を中心とした持続可能なスター



トアップコミュニティを形成し、アジアの玄関口という沖縄と言う地政学的な優位性を活かしたグローバルハブへの成長へとつなげていきたいと考えています。

2. 5 導入費・維持経費

委託料

平成28年度 80,000千円

平成29年度 59,800千円

〔問い合わせ先〕

- ・団体 スタートアップカフェコザ
沖縄県沖縄市中央1-7-8
- ・電話番号/080-3963-3355
- ・HP: <http://startup-café.okinawa>
- ・FB: [facebook.com/okinawa.startupcafe](https://www.facebook.com/okinawa.startupcafe)
- ・団体 沖縄市 経済文化部 企業誘致課
沖縄県沖縄市仲宗根町26番1号
- ・電話番号/098-929-3308

- ・団体 株式会社Progate
東京都渋谷区神泉町10-10 アシジ神泉ビル 8階
- ・HP: <https://prog-8.com/>
- ・FB: <https://www.facebook.com/Progate-742679992421539/>